

(別紙) 学修成果の評価方法

1. 学習に対する心構え

- a. 目標検定の取得を目指した各科カリキュラムに従って、短期間に豊富な知識と各種技能を修得しましょう。
- b. 学習の基本は徹底的な反復学習であるので、授業中に完全に理解するよう努めるとともに放課後の実習室の利用や家庭での復習を心がけましょう。
- c. 立派なスペシャリストを目指すという目標を常に念頭に置いて学習しましょう。

以上を前提として、当校の「建学の精神」を次のように定める。

「教育、文化を通して地域社会、国家の発展に寄与する。」

2. 授業外の学習

(1) 検定対策授業

主要検定に関しては、各科カリキュラムにおいて、検定に合わせた対策授業を行うので必ず受講してください。

(2) 家庭学習

a. 予習・復習

授業密度が濃いので予習、復習を欠かさないでください。

b. ホームワーク

課題は必ず指定された日までに提出してください。

(3) PCの利用

PC室または自教室でノートPCの利用を認めています。始業前・昼休み・放課後などの時間帯に利用できます。担任の許可を得た上で積極的に利用してください。

3. 成績評価

(1) 成績評価は原則として科目毎に評価します。

(注) 同一名称であっても、末尾にⅠ・Ⅱ／A・B等の記号の付されているものは、それぞれ別の科目として取り扱います。

(2) 成績評価は、検定取得状況、授業態度、確認テスト、出席率、ホームワーク状況、修得試験等の資料によってなされ、本人の努力に関しても考慮します。

(3) 算出方法

- a. 成績評価はA、B、C、Dの4段階とします。
- b. 検定関連科目は、検定結果を中心に評価することもあります。
- c. 検定のない科目は試験・レポート等で評価します。

(4) 評価基準

- a. 検定による評価を行う科目は、検定のたびにそれぞれ評価基準を決定します。
- b. 検定結果によらない科目では、おおむね以下の基準に従って評価します。

A：科目に対する理解及び日常の授業態度が著しく優秀な者

B：科目に対する理解及び日常の授業態度が良好な者

C：科目に対する理解及び日常の授業態度がやや劣る者

D：(1)科目に対する理解が著しく劣る者

(2)出席率が80%未満の者

(3)繰り返し私語、居眠り、無断欠席を行うなど日常の授業態度が著しく劣る者

(5) 考査資格

科目終了時に、当該科目の出席率を集計し、80%以上の出席率のない者は考査の対象となりません。従って成績いかにかわらず、D評価となり追試を受験することになります。

(6) 追試・認定試験

- a. D評価の者は追試を行い学習の機会を与える。
- b. 追試験に合格しない者は認定試験を受験する。認定試験に合格できなかった科目のある場合は卒業・進級を認めない。
- c. 追試験・認定試験の合格者は原則としてC評価とする。
- d. 追試験及び認定試験を受験する場合は相当額の受験料を納入する。

(7) 成績表

各期末に検定結果・学習理解度ならびに態度に応じて評価、作成し、保護者宛てに郵送します。

4. 各試験に対する注意事項

a. 試験は、本分に従い厳正に受験しなければならない。もし不正の行為があれば嚴重な処分を受けます。

b. 携帯電話等の機能を使用した場合は、不正の行為とみなします。

c. 指定された席に正しく着席し、所持品はすべて整頓してロッカー等に置きます。その他の箇所は一切物を置くことを禁じます。

d. 答案は試験場を退場する時には必ず提出してください。試験用紙の室外持ち出し、並びにそれによる試験放棄は厳禁とします。

e. 受験票としては、学生証をもって代えます。これを試験の毎時間携帯し写真のある方を上にして机の右側に置き、監督教師からの写真照合を受けます。この受験票として写真のない者は退場を命ずることがあります。

f. 正当な理由なく受験できなかったものは不合格とします。ただし、病気、その他のやむを得ない事由で受験できなかった者に対しては再試験を行うことがあります。この場合、当該科目の試験終了一週間以内に医師の診断書又は事由書等の証明書を添付した試験欠席届を提出してください。

5. 卒業基準

a. 出席率 80%以上（総出席時間の割合）。

b. 成績評価がすべて C 以上

c. 卒業基準検定の取得

d. カレッジリーグ・フィールドワーク・プログラム（C. F. P）の規定点数以上の取得

e. 該当年次の学費及び諸費用の完納があること

※b または c を充たせない者は同等レベルの認定試験を受験し合格しなければなりません。なお、認定試験を受験する場合は相当額の受験料を納入します。

6. 進級基準

a. 前学年までの出席率 80%以上（総出席時間の割合）。

b. 成績評価がすべて C 以上

c. 検定取得状況（1 年次取得検定）

b を充たせない者は同等レベルの認定試験を受験し合格しなければなりません。なお、認定試験を受験する場合は相当額の受験料を納入します。

d. カレッジリーグ・フィールドワーク・プログラム（C. F. P）の規定点数以上の取得

e. 該当年次の学費及び諸費用の完納があること

7. 転入・転科

（1）転入

卒業見込みの者は選考（原則として書類選考）により転入できることもあります。

（2）転科

進級見込みの者は選考（原則として書類選考）により転科できることもあります。

カレッジリーグ・フィールドワークプログラムについて

1. 目 的

本校の教育方針の一つである「豊かな人間形成」の実現に向けて、本校内外の課外活動、行事への参加を推進する。同時に学生の積極性、自己啓発意欲の育成を図る。

2. 構 成

(1) 名称 カレッジリーグ・フィールドワークプログラム (C. F. P)

(2) 概要 研修旅行、スポーツ大会等の本校主催の行事・活動に対し、参加することを必須とします。この必須行事全てと指定選択行事または自由選択行事に参加することにより、C. F. Pの規定点（学科、学生により異なります）を取得することができるものとします。
やむを得ない事情により上記の行事を欠席した場合、必須行事以外の行事への参加によって、規定点の不足分を補充しなければなりません。（公欠の場合は欠席と異なり、不足分の補充の必要はありません）

3. 内容・範囲

(1) 必須行事および規定点について

本校主催の課外授業・活動であって、参加が必須であるもの。
必須行事（学科、学年より異なります）

- ・新入生歓迎会（1・2・3年生）
- ・NSG合同学園祭（1・2・3年生）
- ・研修旅行（対象学年）
- ・大運動会（1・2・3年生）
- ・スポーツ大会（1・2・3年生）

上記の必須行事を全て参加することにより、規定点の取得となります。

(2) 指定選択行事…〈各2点〉

本校、カレッジリーグ各校、又は他の関連団体が主催する行事・活動であって、本校が予め指定するもの。

- ・勤労奉仕活動
- ・その他（年度途中で追加指定されたもの）

(3) 自由選択行事…〈各1点〉

必須や指定選択とする行事ではないが、生徒の自由意志に基づき、事前に申請書を提出し、参加による得点取得が予め了承されたもの。

具体的には、次の様なものがあります。

- ・ 美術展等教養文化的色彩の強いイベント、フェア、講演会等。
- ・ 各種カルチャー教室、通信教育等。
- ・ ボランティア活動。
- ・ 献血。

4. 進級・卒業基準への適用

本校では、C．F．P規定点の取得を進級・卒業基準の1つとして定めており、前項4に掲げる規定得点を当該年度を進級・卒業の認定時まで全て取得しておく必要があります。

5. 規定点取得のための手続き

次の表のように、各行事への参加により、各々1～2点の得点取得が認められます。本校主催必須行事では、担任の出欠確認のみで取得できますが（就職講演会はレポート必要）、選択行事においては、それぞれ固有の必要書類があるため、注意してください。

(1) 事前申請の履行

注 意

★★自由選択行事への参加により得点を取得する場合★★ 自由選択行事に、積極的に参加し、C．F．Pでの得点を得ようとする場合、別途の評価申請書に所定事項の記入を行い、実施日7日前までに担任教師へ提出すること。

- (2) 事後の必要書類提出自由選択行事参加後の必要書類提出は、実施後2週間以内に行うこと。

行事・活動	得点数	必 要 書 類	備 考
(1) 必須行事	2	なし（出欠の確認）	
(2) 指定選択行事	2	なし（出欠の確認）	
(3) 自由選択行事	1	事前に評価申請書が必要 感想文（800文字以上）参加を証明するもの（チケットの半券、パンフレット類など）	

C F P 自由選択行事申請書

申請日 令和 年 月 日

学科	科	学年	年	氏名	
----	---	----	---	----	--

●参加行事名・イベント名

--

●参加日・期間または就業期間

年 月 日 曜日(～	年 月 日 曜日)
------------	-----------

●開催場所及び主催団体名

場 所	
団体名	

●手順

- 1: 内のみ記入。
- 2: 担任の先生に申請書を提出し許可を得る。許可後、申請書をもらう。
- 3: 参加日・期間または就業期間終了後、添付書類とともに2週間以内に再提出の事。

学校側記入欄

◆添付書類

1. チケットの半券またはパンフレット類
(参加を証明するもの)

2. 感想文 800 字以上

3.

4.

5. _____

許 可 欄	教務部長	担任